

グローバル社会における理学療法士の活躍に資する事例紹介

東京・ソウル理学療法士協会 学術交流に関する報告

東京都理学療法士協会 国際部

## 1. 活動概要

韓国のリハビリテーションの状況や先進的な治療を知ることによって研鑽し理学療法技術と知識の向上をすることで公益に貢献すると考え、相互の学術大会の参加を中心に交流継続している。学術大会参加以外にも病院や施設見学、地域リハビリや在宅リハに関する研修会を実施し情報共有し研鑽に努めている。

本交流事業は開始から約15年継続しており経過において日韓情勢の緊張やコロナにより一時的に渡韓、来日が途絶えることがありながらも、交流が継続していることにも大きな意義がある。

## 2. 活動開始の経緯

2008年 第10回アジア理学療法学会（開催地：幕張メッセ）にてソウル会長より、本会第5代会長に東京・ソウル協会の連携・交流の提案あり。両協会間で顔合わせを行い士会間交流を約束。

2010年 第29回東京都理学療法学会より学会へのソウル士会招聘開始。同年よりソウル理学療法士学会への参加・講演を開始。

2015年 渉外局内に国際部を新設し運用を担当。

2016年 交流マニュアルを作成し調印。

初回の調印から7年経過し、2023年6月に改訂、再調印予定。

・マニュアルの作成により学会開催までの大まかな日程のルールが決まったが、学会時の会議は継続し両士会の現状や問題点、制度の違いなど活発な意見交換を実施。コロナ感染流行後、相互訪問が不可能になったがwebでの両士会会議を継続。

※マニュアルは本年度改定後閲覧可能ですので、JPTA事務局もしくは東京都理学療法士協会事務局までご連絡ください。

## 3. メンバー概要

<国際部開設時> 2015年～

国際部担当者1名：ソウル学会に参加経験あり。その他個人的にアメリカやアジア各国の病院、大学見學歷あり。経験年数=24年（2015年時）

渉外局3名：国際部開設前の運用を実施しており経過を把握している。

学会参加者については学会テーマに合わせて随時依頼するため、講師依頼や理事会での報告、検討事項の提言などを実施

通訳2名：在日韓国人。日本で理学療法士養成校を卒業後都内で勤務。言語はもちろん、日本における理学療法の制度についても精通しており他県士会に所属しているが継続して通訳を委託。他県士会にてソウル以外の都市との国際交流や学会での通訳経験が多く、韓国

からの依頼で通訳をすることもあり。  
+ α 都士会員からの紹介にて学会発表時の通訳を委託。

<現在のメンバーについて>2022年

- ・国際部部长 1名：2015年開設時より継続して担当。経験年数：31年
- ・国際部員 2名：①開設時の通訳が現在都士会会員となっており国際部員として通訳・翻訳業務以外の業務に携わっている。経験年数：19年  
②2022年度より加入。経験年数：8年
- ・渉外局、その他の通訳については現在も継続して協力頂いている。

#### 4. 活動開始時に必要な情報

- ・都士会員の内、国際活動に興味がある会員の情報
- ・韓国語通訳が可能な理学療法士（日本人・韓国人に関わらず）に関する情報

#### 5. 活動実績

<東京都理学療法学会講師招聘>

2009年～2022年（2020年は参加なし、2021年～動画参加）計12回

各学会のテーマに合わせて特別講演及び一般演題を依頼

訪日期间中に都内施設見学や福祉機器展に参加

2018年以降の講演内容

- ・2018年 第37回 東京都理学療法学会

特別講演：「韓国のスポーツ理学療法」 チョン・ソニョン

一般演題：「股関節内転筋収縮を伴ったブリッジ運動は亜急性脳卒中患者の運動機能を向上させる」 パク・チャンボン

一般演題：「歩行練習の最新見解」 ユ・ジェホ

- ・2019年 第38回 東京都理学療法学会

特別講演：「肩複合帯損傷のための徒手療法の臨床的適用」 チェ・ドンモ

一般演題：「変形した側面胸郭運動における腰方形筋と腹斜筋の表面筋電図活性度の比較研究」 チ・チファン

一般演題：「体幹筋力の不均衡は腰痛と関連があるのか～エリート男子ホッケー選手の腰痛と多方向等尺体幹筋力テストの相関関係」 ナム・ヨン

- ・2020年 第39回 東京都理学療法学会

コロナ流行に伴い参加依頼を断念

- ・2021年 第40回 東京都理学療法学会（Web開催）

特別講演：「韓国におけるウーマンヘルス理学療法」 イ・ハヌル

一般演題：「VR 訓練が慢性脳卒中患者の機能に及ぼす効果」 パク・ソヌク

・2022 年 第 41 回 東京都理学療法学会 (ハイブリット開催)

特別講演：「ソウル市理学療法士協会の政策方向」 ソウル市士会長 パク・ジェミョン

一般演題：「筋の運動連鎖プログラムが歩行周期の立脚期の割合変化に及ぼす影響」 パク・ビョンチャン

#### <ソウル理学療法士学会参加>

2010 年～2022 年 (2019、2020 年は参加なし、2021 年～ライブ配信) 計 12 回

各回特別講演と一般演題 (1～2 演題) をテーマに合わせて実施

訪韓中にソウル市内施設や福祉機器展に参加

2018 年以降の講演内容

・2018 年 特別講演：「介護予防事業への理学療法士の関わり」 中澤幹夫

一般演題：「心疾患における早期リハビリテーション介入の実際」 竹田紘崇

一般演題：「障害者スポーツに対する理学療法士の関わり」 遊佐真弓

・2019 年 日韓関係の悪化により韓国国内の反日感情に配慮し参加を断念

・2020 年 コロナ流行に伴い訪韓を断念

・2021 年 オンライン開始。都内会議室より配信する形で参加

特別講演：「COVID-19 の理学療法」 高橋忠志

一般演題：「新型コロナウイルス感染症によるリハビリスタッフの心理的影響調査」 廣瀬幸子

・2022 年 Web 開催 動画にて参加

特別講演：「日本徒手理学療法のトレンド」 松村将司

#### <認知リハ・訪問リハ診療に関する研修>

2018 年 6 月 21 日～22 日 2 日間

韓国では病院・クリニックでの理学療法が主体であったが、2017 年文在寅大統領の就任による政権交代で認知リハや在宅リハを行う方向に政策が転換し、日本における取り組みについて見学・研修したいと、ソウル士会より申し入れあり。介護保険制度・在宅リハビリに関する研修・見学を実施 (ソウル士会から参加者：9 名)

6 月 21 日 (終日)：鶴川サナトリウム病院にて研修および見学

6 月 22 日 午前：江古田の森病院にて研修 午後：東京総合病院にて見学

#### <東京都理学療法士協会 50 周年記念式典>

2018 年 9 月 8 日 東京都理学療法士協会 50 周年記念式典に来賓として会長、理事等をご招待。記念式典に参加頂いた。

## 6. 活動に関する年間スケジュール

<大まかな流れ>

学会参加時にソウル・東京理事および次回学会運営と会議を開催し、学会テーマについて伝達。その中で特にどういった内容を希望するかなどの検討を行い、演者や講演内容については各士会で決定後メールにて伝達する。

※コロナ後は学会開催に関わらず随時 WEB 会議を招集し協会の体制変更や次回学会テーマ、講演希望について情報交換を行っている（概ね年2回）

現在、マニュアル内で取り決めた日程は以下の通り

### ① ソウル学会参加時：

- ・学会開催 45 日前までに講師プロフィール、履歴書、抄録を提出（原則日本語提出だが英文抄録がある場合は一緒に提出）
- ・学会開催 30 日前までに PPT 提出（参加者への配布資料となる）
- ・参加前日に PPT の動作確認と通訳担当者との打ち合わせ
- ・学会前日もしくは終了後に交流に関する会議を実施し次回学会についての検討を行う ※コロナ後は WEB 会議にて実施

### ② 東京学会参加時：

- ・学会開催概ね 90 日前までに講師プロフィール、履歴書、抄録を提出（原則韓国語）
- ・学会開催月前月末までに PPT 提出（韓国語）
- ・参加前日に PPT の動作確認と通訳担当者との打ち合わせ
- ・学会前日もしくは終了後に交流に関する会議を実施し、次回学会についての検討を行う ※コロナ後は WEB 会議にて実施

## 7. 都士会員のメリット・デメリット

<メリット>

・韓国と日本では保険制度が異なり徒手療法の実施により保険診療点数が加算され、理学療法士の給与にも反映される。そのため徒手療法に関する関心が高い。しかし政権交代などにより老人や認知リハ、在宅リハへ重点を置くという政策に変更がありリハビリのニーズが大きく変わっている。また、理学療法士の免許の更新制をとっており、年数回実施されるソウル理学療法士協会主催の補修教育に参加し、ポイントを得る必要がある。こういった日本とは異なる制度を知り、**文化・背景を踏まえた理学療法の発展について新たな情報や見解を知る事が出来る。**

・訪韓時の病院見学や同時開催される福祉機器展にて**日本ではあまり使用されていない医療機器や治療機器に触れることが出来る。**韓国では「韓方治療」という漢方とはまた異なる医療が受け継がれており、病院内に併設されている場合があるがこういった**韓方治療に基づいた治療器具も見られる。**

#### <デメリット>

- ・常に通訳を介すため講演や連絡において通常と倍の時間がかかること。そのため1時間の講演や会議でも実質の内容は30分になってしまう。
- ・韓国と日本ではビジネスのスタイルが異なるため、相互の理解と信頼関係が必要になるが、準備に対する温度差や当日の急な変更、予定外のイベントにより学会直前～終了までの業務量が非常に多くなり疲弊する。

## 8. 今後の方向性

#### <今後の方向性>

- ・学会参加を継続しながら、今後の理学療法の発展について情報交換を行う場の裾野を広げていきたい。そのため、より教育を目的とした研修や相互訪問・見学など都士会員の参加機会を増やして交流活動分野や人材を広げていく。
- ・ソウルとの交流やノウハウを基にソウルのみではなく、世界の先進的な理学療法について学際的な交流も視野に入れて活動を拡大していく。

#### <どのように活動組織を大きくしていくか>

- ・国際部部員を増やし、業務分担を細分化、また、韓国語通訳が可能な都士会員を増やすことで今後の交流継続のための次世代会員の育成。
- ・現在国際部員や韓国語通訳について公募などはしていない。
- ・韓流やKPOPの流行により韓国に興味のある会員は少なくないが、ソウル士会との調整、旅程調整、通訳との協議、訪韓時のツアーコンダクター、広報と業務内容は多岐にわたり、興味だけで継続できる業務ではなく、都士会に定着した会員であることなどを含め、検討しながら部員・韓国語通訳者のリクルートを行っている。通訳者については概ね人伝えによる紹介。
- ・今後の展開も視野に入れ、韓国語のみではなく他言語通訳可能な都士会員を組織内に取り込む。

#### <活動の持続に向けて>

2008年から約15年継続している本交流は、コロナ流行期を経過しても継続している。東京都理学療法士協会理事や国際部部員が交代した場合も継続可能となるよう、東京とソウルの学術交流に関する相互規定を随時更新する。また、国際交流は事業とはいえ、人あつての交流であり両理学療法協会および両国の状況に配慮し、交流事業以外でのコミュニケーションも絶やさないと感じている。

## 9. 財源と財政状況

<これまでの活動財源とその財政状況>

毎年、東京都理学療法士協会の事業として年間事業計画を立て、予算案、事業計画を作成し計上。主な支出は旅費（参加人数により変動）、諸謝金（講師料）臨時雇用費、通訳費、会議費、移動交通費。旅費についてはホスト側が一律 40 万円を旅費として支払うことになっており、これを超えた旅費に関しては訪問側の負担となるという取り決めとなっている。

講習参加費などの収入はなく、病院・施設見学についても都内施設にてボランティアで受諾頂いている。